

5. ピラミッドアジサイの新品種育成（H29～33）

《 背景・目的 》

産地間競争の激化

オリジナル品目がほしい

アジサイ研究会発足(H24)
生産者:15戸
出荷量(H28):
切り花; 17,000本
鉢花; 6,000鉢

ピラミッドアジサイを提案

- 短期栽培法開発(H21)
- 新品種育成
2品種を育成(H27, 28)



‘山梨24-1’
H30出荷開始予定



‘山梨22-1’
H31出荷開始予定

もっと
バラエティ
がほしい



さらなる品種改良の要望

現状の課題

- 花形が似ている
- 花色が白色しかない
(花色変化した場合ピンク色)
- 雄ずいの落下による汚れが目立つ



枯死した雄ずい

※ H29年度は一般枠として有望系統の選抜を行ってきたが、平成30年度から生物工学的手法を用いた種間交雑も行い、既存の品種にはない新品種育成を目指す。

《 試験内容 》

試験内容	検討項目	H29	H30	H31	H32	H33	期待される効果・予定
有望系統の 特性調査	有望系統の選抜						H33: 新品種育成 H34: 新品種登録申請
	増殖力調査						
	栽培特性調査						
	現地適応性試験						
新系統の 作出	種間交雑 (試験管内交雑、胚珠培養)						H30～31: 2,000交雑、 100雑種獲得を目指す H33: 新色・無雄ずい等 有望系統を選抜 H34～: 特性調査等
	雑種間の交雑 (劣性形質の獲得)						
	有望系統の選抜						

(育種目標)



花形・花弁の改良
(写真: 細長形花弁の
ピラミッドアジサイ既選抜系統)



花色の改良
(写真: 西洋アジサイ)



無雄ずい系統の作出
(写真: 西洋アジサイ)

《 期待される効果 》

- オリジナル品種育成→競争力強化
- 花形・花色バリエーションの多様化
- 無雄ずい品種育成→高品質化



ピラミッドアジサイ産地の基盤確立